

潮来あやめ園散策報告(2023年5月28日(日))

昨年6月には、「水元公園」に出かけたが、今度はもっと規模の大きい所として、「水郷佐原あやめ園」と「水郷潮来あやめ園」を検討した。佐原の方が少し規模は大きいですが、駅からのバス便が若干不便なので、駅から5～6分という潮来の方に決定した。それに手漕ぎの「さっぱ舟」に乗れることと、土日には「嫁入り舟」が出るという“おまけ”まで付いている。今年は全般に花期が早いので、5月末の実施とした。

当日は伊藤さん、浮津さんと陽田の3名で出かけることになった。潮来までは東京から約100kmあり結構遠い、今の花菖蒲の時期、土日曜のみの臨時特急利用と普通列車の二案があり、10時40分迄に潮来駅に集合することにした。潮来駅前では「潮来あやめまつり」のために、藍色の緋を着て赤い襷をかけたお嬢さん2名とボランティアらしい人達が案内していた。

数分で「あやめまつり」の会場に着く、沢山の屋台が出ていて、“たこ焼き”“焼きそば”や花菖蒲の株を売っている。「あやめ園」は「常陸利根川」に繋がる「前川」の岸に長く伸びていた。花は今五分咲き位だろうか。アヤメ園を見て驚いた、花菖蒲は水中に植えられているものと考えていたら、なんと赤土の乾いた畑に植わっていた(周囲のあちこちには散水装置があるが)。パンフレットには“百万本”と書かれていたが、ホントかなと思った。まだ色付いていない蕾も沢山あるので、まあそうなのかなと思って納得することにした。

眼前に「前川」に架かる高い太鼓橋が見えたので、この上からなら全体の様相がよく分かるだろうと登ってみた。手前側の岸の柵には大勢の人が群がっている、それもその筈、今日はまもなく11時から「嫁入り舟」が出るのだ。この舟は上流側から出船して「あやめ園」の中央の船着き場まで“行幸”するのだ。折角なので我々も岸の柵前で見物することにした。舟は手漕ぎなので、ここまで進んでくるのは11時20分頃だろうと教えてくれる人がいた。また、以前はなかなか参加してくれるカップルがなくて、結婚2年以内のご夫婦でも良いとしたが、今では人気が出て抽選するほどだとか。今日も11時と午後2時の2組の「嫁入り舟」が出る。間もなく舟が下ってきた。船首に角樽2本、米俵3俵と嫁入り道具の箆笥を積み、その後には花嫁御寮、その後には仲人夫婦が座っている、その後からもう一隻、空色の法被を着た人達が太鼓、笛などのお囃子を奏でながら並走してきた。今日の花嫁さんは周りの人達に笑顔を向けていた。花嫁は舟から上がってお婿さんに迎えられて、用意されていた人力車に乗り、少し離れた旧家磯山邸まで行くことになる。

11時35分、花嫁さんが舟から上がったところで、我々は「さっぱ舟」(舟賃:千両)に乗るために乗り場に行った。既に15人位並んでいたが、一艘に8人ずつ乗るのであまり待たずに乗船できた。船頭さんは舟を先ず上流側(殆ど流れはないが)に漕ぎ、500m程進んで折り返す、船頭さんは、お客さんの集まり具合、周囲の店等の様子、船頭の仕事振り、などの説明をしてくれた。他の舟ではラジカセで「潮来笠」などの音楽を流していた。また若い女船頭さんが漕ぐ舟もあった。舟は船着き場より少し下流まで行き折り返して約30分で戻って来た。

12時を過ぎていたので食堂を探したが、「あやめ園」の近くでは多くの店に行列ができていたので、12時25分、少し離れた小さなそば屋「更科」を見つけて入った。3脚のテーブル席は埋まっていて、畳のテーブル席に座りこんだ。年配女性二人で“切り盛り”しているので、注文の品がなかなか出てこない、後から入って来たご夫婦はしびれを切らしたのか、途中で出て行ってしまった。時計を見ていなかったの、食事を終えて店を出た時は丁度13時30分、列車の発車時刻だった。次の列車は15時過ぎで1時間半位待たねばならない、仕方なくもう一度「あやめ園」へ戻った。船乗り場前に橋幸夫の銅像が立っている。橋幸夫は「潮来笠」(歌と同名映画)

で名を売ったため、「水郷潮来大使」になったそうだ。

列車の時刻を調べたら、鹿島線 2 駅先の「鹿島神宮」まで行って、鹿島神宮にお参りして、そこから始発の臨時特急に乗ることができると分かった。これは「オプションルツアー」として、ここで一応解散ということになり、伊藤さんと私だけ行くことになった。14 時 29 分潮来駅発、35 分鹿島神宮駅着、先ず特急券を確保せねばならない。この駅には「自動発券機」があるが、これは“臨時”のためか、「大人の休日倶楽部」での「割引適用」ができない。駅員さんが 3 人ほど来てトライしてくれたが、駄目だった。私は「ジパング倶楽部」なので割引 OK となり、“紙”のアナログの方が OK で、デジタルは駄目という些か納得いかない結果になった。

若干時間をロスしたので往復 35 分だ、駅前の広いが並木などはない殺風景な舗装道路を登って行くことになった。400m位登り坂上で左折すると、向うに大鳥居が見えて来た。「鹿島神宮」は菊の御紋付きの「官幣大社」で「三大神宮」になる。鳥居から「楼門」(国重文)へ進む、その先右手に修理中で網を被った「拝殿」とその奥に「本殿」(国重文)が見えたが、時間が無くなり楼門の処で遥拝礼して引き返した。

15 時 30 分「鹿島神宮駅」発の臨時特急に乗車して、今日も車内でずっと反省会があつて、終着新宿駅で解散した。

以上 陽田

- 『注記』「三大神宮」は
1. 「伊勢神宮」
 2. 「鹿島神宮」
 3. 「香取神宮」



潮来あやめ園



潮来あやめ園



多彩な花菖蒲



「嫁入り舟」



女船頭さんが漕ぐ「さっぱ舟」



鹿島神宮の楼門(国重文)

